

大和合金 25年度の販売数量 1割増、最高水準目指す

銅合金の鑄造品・鍛造品メーカー大和合金(本社・東京都板橋区、社長・萩野源次郎氏)は2025年度の販売数量について、前年度比で約1割増の水準を

銅合金の鑄造品・鍛造品メーカー大和合金(本社・東京都板橋区、社長・萩野源次郎氏)は2025年度の販売数量について、前年度比で約1割増の水準を

目指す。航空機関連分野については引き続き高水準の販売を見通す。状況の中で電子関連分野が回復すると見られている。目標とする1割増の販売量は過去最大水準となる。

同社では航空機関連分野については、アルミ青銅や高力黄銅製のブッシュと呼ばれる筒状の鍛造品・押出物が主力製品。着陸時に使うランディングギアの軸受用に国際的に供給している。来年度は機体整備向け・新造機向けの需要がともに旺盛と見ている。併せて新規顧客の開拓も進める方針。また電子関連の分野については、夏ごろから回復すると見込んでいる。売上高と営業利益については前年度比で増加を目指している考えだ。

工業 三芳合金 再エネ電力比率を拡大 非化石証書を追加購入

銅合金の鑄造品・鍛造品などを製造する三芳合金工業(本社・埼玉県三芳町、社長・萩野源次郎氏)は再生可能エネルギー電力の使用比率を拡大させる。現在では使用電力の3分の1が再エネ由来。電気が化石燃料由来ではないことを示す「非化石証書」を追加購入し、この春から使用電力の約半分を再エネ由来とする方針だ。

同社では環境対応に注力。これまでも再エネ由来の電力に加え都市ガスを導入するなどの取り組みを進めてきた。自社として環境に配慮することに加え、海外などの顧客にサプライチェーン全体

NC旋盤を2基更新

三芳合金工業はこのほど、NC旋盤を2基更新した。航空機関連のブッシュなどの機械加工に用いる設備。更新により、これまで以上に安定した操業が可能になる。投資金額は

数千万円。
更新は昨年12月に実施しており、1基についてはより大型の機種を導入。置き換え前の設備と比較して、より長い製品の切削加工ができる。これにより、顧客が切断して使用する際に歩留まりが上がるなどのメリットが出る。